

シンビディウムの育て方(1)

栽培管理

置き場所

5月頃、霜の心配がなくなれば戸外に出します。日が十分に当たる風通しの良い場所を選び、雨水のはねかえりのない棚上などに置きます。梅雨明け後から9月中旬までは寒冷紗などで30%程度遮光し、葉焼けを防ぎます。

11月中旬頃室内に取り入れます。冬の間はガラス越しの日によく当て、最低温度を5～10℃で管理します。なお、日中25℃以上、夜間15℃以上の高温にすると花芽が枯れるので注意しましょう。

水やり

生育期の春～秋までは、毎日たっぷり与えます。冬に適温（10～13℃）が保てない場合は、植え込み材料の表面が乾いてからさらに3～4日待って、暖かい日の午前中に鉢内が湿る程度に水やりをします。

肥料

4～7月上旬に月1回ずつ、油粕と骨粉を等量に混合し、親指の頭大に固めたもの（市販のものでも可）を5～6号鉢で2～3個与えます。あわせて液肥を10日に1回程度与えてもかまいません。

芽かき

秋～早春に発生した新芽を1バルブに1つ残します。晩春～晩夏に出た新芽は、十分に生長せず花芽をつけないので、早めにかき取ります。

病害虫の防除

ウイルス病に感染している株は、新芽の葉脈に沿って、かすり模様状に緑色の濃淡が見えるので、処分するか、隔離栽培します。カイガラムシは手や綿棒でこすり落とし、発生が多ければ、オルトラン水和剤等を散布します。ハダニは乾燥期に発生しやすく、ケルセン乳剤などの殺ダニ剤を散布します。

シンビディウムの年間管理表

管理	月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	
置き場所		戸 外						室 内 最低温度7～8℃(できれば10～13℃)						
日当たり (%は遮光率)		徐々に慣らして日によく当てる 30%						日によく当てる ガラス越しの日によく当てる						
水 や り		毎日たっぷり						少なめ						
肥 料		● 置肥 液肥10日に1回		● リン・カリ肥料(液肥)10日に1回				● 置肥						
作 業		← 芽かき(発生のおつと) →						← 支柱立て →						← 植え替え 株分け →



シンビディウムの育て方(2)

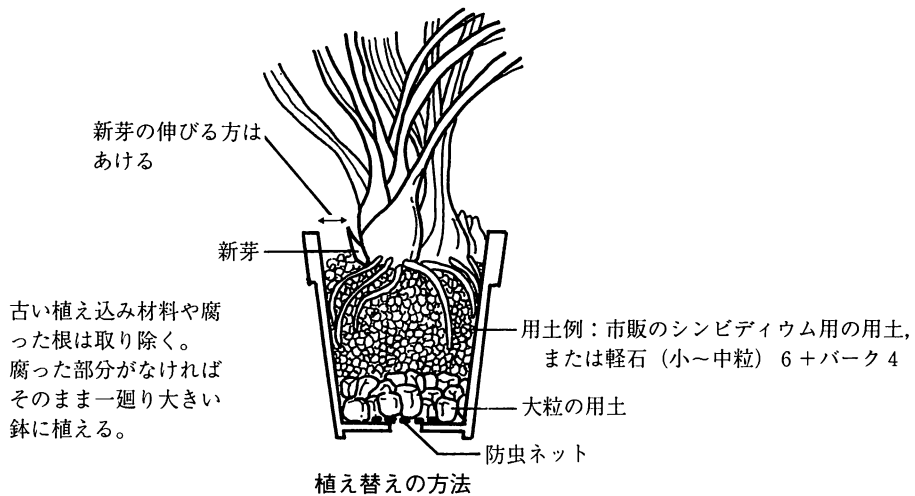
植え替え

植え込み材料

軽石、バーク、水苔などが適します。市販のシンビディウム用の用土を使用してもよいです。

植え替え時期と方法

株が鉢にいっぱいに生育したものや、植え込み材料の古くなったものは植え替えます。開花が4月中旬以降になった場合は、開花後早々に切花にし、できるだけ早めに植え替えます。



繁殖

大株になって株分けの必要なものは、植え替え時に3～5バルブを1株として分けます。また、余分な充実したバルブは、切り離し、水苔で植えておくと、秋には新芽が出て苗が得られます（バックバルブ伏せ）。

